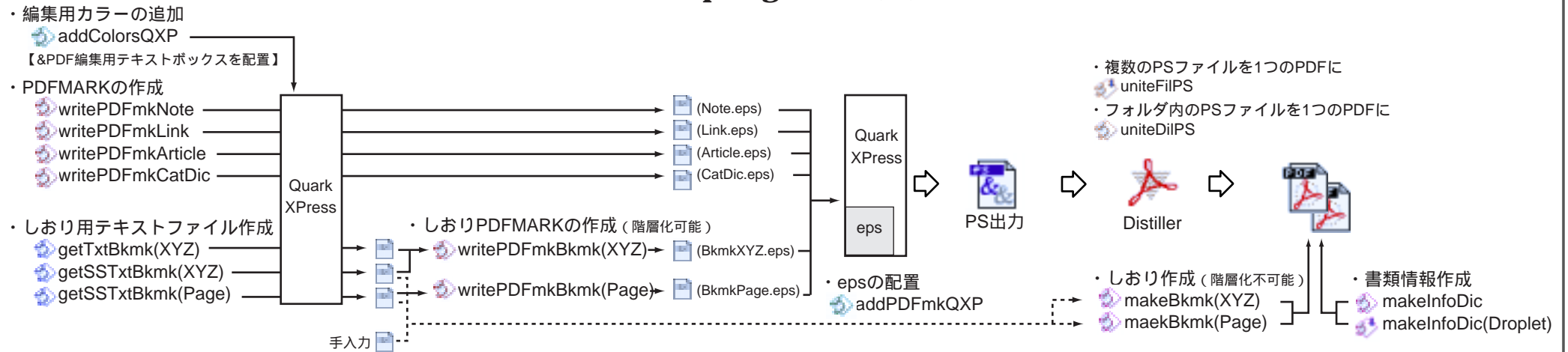


Acrobat Scripting Tools ()全体図



PDFMARKを利用したPDF作成ツール

1) QuarkXPressでの作業 1

1-1) 編集用カラーの追加【addColorsQXP】

QXPドキュメントに、新規カラー ('NoteColor', 'LinkFromColor', 'LinkToColor', 'ArticleColor', 'BookMarkColor') を追加します。

1-2) PDF編集用テキストボックスの配置

ノート用テキストボックスの作成方法

フレームがNoteColorで、印刷しない、回り込みなしのテキストボックスを、ノートを作成したい場所、大きさに設定します。

1行目の内容がノートのタイトルになります。文字の色が、タイトルの色になります。2行目がノートの内容になります。

リンク用テキストボックスの作成方法

フレームがLinkFromColorで、印刷しない、回り込みなしのテキストボックスを、リンク元となる場所に、作成したい大きさに設定します。

フレームがLinkToColorで、印刷しない、回り込みなしのテキストボックスを、リンク先となる場所に、作成したい大きさに設定します。

そして、リンク元のテキストボックスとリンク先のテキストボックスの中に、同一の文字列 (半角英数字) を記入してください。

アークティクル用テキストボックスの作成方法

連結されているテキストボックスに対して、アークティクルを設定します。

それ以外でアークティクルを設定したい場合、フレームがArticleColorになっているテキストボックスに対して、アークティクルを設定します。

しおり用テキストボックスの作成方法

フレームがBookMarkColorで、印刷しない、回り込みなしのテキストボックスを、しおりを作成したい場所に設定します。ボックスの左上の座標のみ必要ですので、大きさは任意で構いません。

テキストボックス内容が「しおり」になります。タブを付けて、階層付けても構いません。

2) PDFMARKの作成

2-1) ノートを作成【writePDFmkNote】

ドキュメント内の、全てのテキストボックスを検索し、ノート用テキストボックスから、EPSファイル「Note.eps」を作成します。

2-2) リンクを作成【writePDFmkLink】

ドキュメント内の、全てのテキストボックスを検索し、リンク用テキストボックスから、EPSファイル「Link.eps」を作成します。

2-3) アークティクルを作成【writePDFmkArticle】

ドキュメント内の、全てのテキストボックスを検索し、連結テキストボックス、アークティクル用テキストボックスから、EPSファイル「Article.eps」を作成します。

2-4) ファイルを開いたときの表示方法を設定【writePDFmkCatDic】

ダブルクリックして、起動します。「ページのみ」「しおりとページ」「サムネールとページ」のボタンが表示されます。どれか一つ選んでください。EPSファイル「CatDic.eps」を作成します。

3) しおり用テキストファイル作成

3-1) 編集用テキストボックスから作成【getTxtBkrmk(XYZ)】

ダブルクリックして、起動します。ドキュメント内の、全てのテキストボックスを検索し、しおり用テキストボックスから、テキストファイルを作成します。

【例】 しおりになる語<tab>参照ページ番号<tab>ページ内X座標<tab>ページ内Y座標<return>

3-2) スタイルシートが適用されている段落と、位置情報を抽出【getSSTxtBkrmk(XYZ)】

ダブルクリックして、起動します。しおりにするスタイルシートを選択します。そのスタイルシートが適用されている段落から位置情報を求め、テキストファイルを作成します。

【例】 しおりになる語<tab>参照ページ番号<tab>ページ内X座標<tab>ページ内Y座標<return>

3-3) スタイルシートが適用されている段落と、ページ情報を抽出【getSSTxtBkrmk(Page)】

ダブルクリックして、起動します。しおりにするスタイルシートを選択します。そのスタイルシートが適用されている段落のページ番号を求め、テキストファイルを作成します。

【例】 しおりになる語<tab>参照ページ番号<return>

4) 上記テキストファイルのしおり階層化

3) で作成されたテキストファイルはそのままでは、5) の入力ファイルにできません。なぜなら、正しく階層化できる状態になっているとは限らないからです。ですから、階層化できるよう訂正、確認の必要があります。

階層化は下記のようにタブで階層付けられていないといけません。しおりとなる語の前にタブを付けます。2階層目はタブ1つ、その親は必ず1階層目。3階層目はタブ2つ、その親は必ず2階層目になるようにします。

【例】	目次	1	
	第1章	1	
	1.1第2階層	2	
	1.2第2階層	3	
	1.2.1第3階層	3	
	第2章	4 <eof>	

(tab return <eof>エンドオブファイル)

このチェックが終われば、5) の入力ファイルにできます。

5) しおりPDFMARKの作成

5-1) 位置情報を持つ、しおりを作成【writePDFmkBkmk(XYZ)】

ダブルクリックして、起動します。入力ファイルを聞いてきますので、3-1) または3-2) で作成したテキストファイルを指定します。処理が開始され、「入力ファイル+.eps」の名称のEPSファイルを作成します。

5-2) ページ情報だけの、しおりを作成【writePDFmkBkmk(Page)】

ダブルクリックして、起動します。入力ファイルを聞いてきますので、3-3) で作成したテキストファイルを指定します。処理が開始され、「入力ファイル+.eps」の名称のEPSファイルを作成します。

6) QuarkXPressでの作業2

任意のページにPDFMARKを配置【addPDFmkQXP】

上記までに作成したEPSファイルをQXPドキュメント内に配置します。どのEPSファイルを何ページ目に配置するのか聞いてきますので、教えてください。ページの左隅に配置します。この位置は動かさないのでください。ただし、複数のEPSファイルが同一ページに重なって配置しても構いません。

7) PostScriptファイルの作成

8) Distiller実行

7)以降は、Distillerを用いた、通常のPDFの作成方法で行います。できあがったPDFには、上記の加工処理が済みであり、Exchangeでの加工は一切不要です。

その他のツール

A) Distillerのツール

A-1) 複数のPSファイルを1つのPDFにするスクリプト【uniteFilPS】

PSファイルを複数選択して、このアイコンに重ねてください。選択した順番で1つのPDFを作成します。PDFは最初にしたPSファイルのある場所に作成されます。

A-2) フォルダ内にあるPSファイルを1つのPDFにするスクリプト【uniteDirPS】

ダブルクリックすると、フォルダを聞いてきますので、選択します。そのフォルダ内にあるPSファイルをその名称順で1つのPSファイルにします。そのため、PSファイルのネーミングを順番になるようにしないとけません。

B) PDFを加工するツール

B-1) しおり作成

位置情報を持つ、しおりを作成【makeBkmk(XYZ)】

ダブルクリックして、起動します。入力ファイルを聞いてきますので、3-1) または3-2) で作成したテキストファイルを指定します。しおりを作成します。ただし、階層の設定はできません。手作業になります。ページ情報だけの、しおりを作成【makeBkmk(Page)】

ダブルクリックして、起動します。入力ファイルを聞いてきますので、3-3) または手入力で作成したテキストファイルを指定します。しおりを作成します。ただし、階層の設定はできません。手作業になります。

B-2) 書類情報を作成

1ファイルに書類情報を設定【makeInfoDic】

ダブルクリックして、起動します。入力ファイルを聞いてきますので、PDFファイルを指定してください。PDFファイルに、

- 「タイトル」
- 「サブタイトル」
- 「作成者」
- 「キーワード」
- 「作成アプリ」
- 「PDF変換」
- 「作成日時」

を設定します。Exchangeでは変更できない、作成アプリ、PDF変換、作成日時を変更できます。

ドロップした複数ファイルに書類情報を設定【makeInfoDic(Droplet)】

上記を複数のPDFに設定する場合に使用します。複数のPDFを選択して、このアイコンにドロップしてください。